

『 防 火 訓 練 』 実 施

新和坂自治会 ・ 管理組合 共催

2019/1/29

1月26日（土曜日）9:45分頃に、当マンションの1号棟5階から火災が発生したとの想定で火災報知機を鳴らしました。5棟の火災報知器の非常ベルがけたたましく鳴りひびき、火災の発生を知らせる。役員が「訓練です」「火事です、すぐに避難をしてください」と大声を張りあげ、全棟の廊下をかけまわり、避難誘導をしました（火災報知機を鳴らすとエレベーターが休止となります）

全棟の火災報知器のベルが同時に共鳴すると、大音響となり、近隣の住宅にも迷惑なので60秒間で停止する予定でしたが、停止の作業に手間取り、発報停止まで4～5分かかりました。

その間「うるさい!!」「早く止めろ」「何をしているのか」と大勢の参加者から苦言が有りました。

マンションで火災報知器を鳴らすと、自動的にエレベーターが運転休止のなるので、建物内の内階段または外部の非常階段を使用して地上に避難するよう案内しました。



9:45 消防自動車2台 消防士5名が到着 隊長から「防火訓話」をいただきました。

（避難場所の1号棟北駐車場に集まった住人はこの時点で約90名）

参加者を2グループに分けて、Aグループはこの場所で、Bグループはふれあいセンターへ移動。Aグループは消火器の正しい使い方を教わりました。引き続き、水消火器による初期消火を体験。





消防自動車の設備について説明を受けました。ホースと、ノズルの接続要領を実演して頂きました。消防自動車に積載している水の量は1500Lで、放水時間は僅か2分程度とのこと。

消火栓から給水する必要がある。このマンション付近にも消火栓が設置されていると説明を受け、安心しました。



記念撮影しましょう

Bグループと場所の入れ替えをしました。

Aグループはふれあいセンターへ移動。明石工業高等専門学校 本塚先生の防災講演を聞きました。先生は被災地での支援活動を通じ、見て、聞いて、体験された貴重なお話をして頂きました。

大災害で広範囲でインフラがダメージを受けた時、マンションの復旧は相当遅れる。電気とガスが復旧しないので、マンションの住民は避難生活が長引くとのショッキングな話を聞き、複雑な気持ちになった。



★ 天ぷら調理中の火災事故・・・

Aグループ、Bグループ合流 天ぷら調理中の火災事故の映像を見て、解説をして頂きました。

① 100℃を越えた油は白い煙が出始める。だんだんさらに高温となり、独特の匂いが充満する。

② 350～360度で発火、炎が上がる。火勢は強まる。消火器を使って消火出来ればいい。

天井まで炎が上がれば直ちに逃げ出すこと。とても危険で消火は不可能。

③ 引火したとき水をかけると火の勢が逆に強くなる。濡れタオルで鍋を覆い、空気を遮断すると火が消える。濡れタオルを取ると鍋と油が冷えるまで自然発火する。

① 白煙発生、臭い



② 自然発火 炎上



③ 落ち着いて濡れタオル



(消防耐火服。手袋を履いて作業)

(発火前はやや黒煙となる)

(とても寄りつけない)

消火スプレーを常備したい。

天ぷらの料理中に、訪問客が来たり、電話が掛かってきた場合は必ずガス栓を留めてガスを消して、対応すること。 天ぷらの温度180℃が、数分で360℃となり、自然発火、鍋全体が燃える。



天ぷら調理中火災の恐怖にみんな釘付けとなり映像をみました。

そのあとAEDの操作方法を繰り返し、繰り返し教わりました。

今年の参加者数は 男性が33名 女性が65名 総数98名でした。
(朝から低温で気温が上がらず、出席者は昨年比25%減)

明石消防本部の皆さん方、本塚先生
大変お世話になりました。

自治会役員・管理組合理事一同

(写真と文 桜井 致)